

TOKYO TRAM TOWN

トーキョートラムタウン構想 ラウンドテーブル開催のご案内

■開催趣旨

2020年オリンピック後の東京のあり方を考えるうえで、今後の高齢・人口減少社会を見据えた都市生活を可能にする新しい交通システムをどのように構想するかは、きわめて重要な要因となります。

ここでは、これまでのような「早く・遠くに」ではなく、「ゆっくり・近くで」への移行が主要な課題となることは間違いありません。

そして、その移動手段の主役は、歩行、自転車、そしてトラムなどが担うことになるのではないのでしょうか。

本ラウンドテーブルでは、東京都心へのトラム敷設を構想する東京文化資源会議(※)検討グループを中心に、本テーマに関わる有識者・関係者をお招きし、スローモビリティを基軸とした東京都心の生活、仕事、交通、文化面での新たな価値創造について多角的に論じ、2030年を目途とするトラム再生の可能性を探ります。

■プログラム

(1) 基調報告「TTT構想の概要と意義」

中島伸 東京都市大学講師

(2) 事例報告①：海外の事例に学ぶ

平賀直武 デンソーソーシャルデザイン課担当係長

(3) 事例報告②：「トーキョートラム」ケーススタディ

渡部裕樹 日建設計総合研究所

(4) 討論「トラムで東京の何が変わる、何をを変える？」

< 討論者 >

上山信一(慶應義塾大学教授/東京都顧問)

島裕(日本経済研究所技術事業化支援センター長)

玉置泰紀(KADOKAWA2021年室エグゼクティブプロデューサー)

高山肇(高山書店社長)

中島伸(東京都市大学講師)

中島直人(東京大学准教授):司会

中村英夫(日本大学教授)

中村文彦(横浜国立大学理事・副学長)

平賀直武(デンソーソーシャルデザイン課担当係長)

山中俊治(東京大学教授)

渡部裕樹(日建設計総合研究所研究員)

* 東京文化資源区とは：



東京の北東部の谷根千、根岸一帯にはじまり、上野、本郷、秋葉原、神田、神保町、湯島に至る地区の名称であり、近世・近代・現代と、時代をまたぐ文化資源が集積した地域です。

高度成長期以降の大規模な開発から免れることで、東京における文化資源の宝庫としての価値を維持し続けており、文化、環境、観光等の様々な視点から街としての

新たな可能性が注目されています。この文化資源区のソフト、ハードあわせた様々な文化資源を活かした

プロジェクトを進めていくことで、2020年以降の新たな東京をつくってほしいという目的の元、

2014年6月より内閣府、国土交通省、文化庁、大学、民間研究機関、企業等、様々な分野の専門家、

実践者の有志が集まり、検討を重ねてまいりました「東京文化資源区構想策定調査委員会」が発展する形で

「東京文化資源会議」が組織されました。

本勉強会は、東京文化資源会議にて提唱された「スローな交通手段とシステムの導入」の実現に向けた

検証プロジェクトとして発足いたしました。

(東京文化資源会議についての詳細はWEBサイトをご参照ください <http://tohbun.jp/>)

■開催日時

2017年9月28日(木)

18:30～21:00(受付開始18:00～)

■開催場所

ワテラスコモン ホール

千代田区神田淡路町2-101 ワテラス3階

■参加申し込み 右の参加申し込みボタンからお申し込みください⇒

参加申し込みはこちらをクリック

お問い合わせ：080-3713-1180(担当：谷口)